

幻のゴルフ場

つきさつぷ

札幌ゴルフ倶楽部月寒リンクス

昭和初期、現在の東月寒地区と清田区北野地区にまたがる一帯に、ゴルフ場があったのを知る人は少ないのではないのでしょうか。今月は、戦争により姿を消したゴルフ場「札幌ゴルフ倶楽部月寒リンクス」を、当時ゴルフ場で少年キャディーをしていた方の思い出とともにご紹介します。

月寒の地に
ゴルフ場ができた！

「札幌ゴルフ倶楽部月寒リンクス」―昭和七（一九三二）年、豊平町大字月寒村字二里塚の牧場地跡（現在の月寒東一二十付近）に誕生したゴルフ場です。

当時、東京以北最大のコースで、北広島市輪厚にある道内屈指の名門ゴルフ場、札幌ゴルフ倶楽部の前身に当たります。札幌初のプロゴルフアー、佐藤敏夫氏もこのゴルフ場に勤務していました。

十八ホールの
本格的なコース

ゴルフ場のコースの設計は、日本のゴルフ界の第一人者で、日本ゴルフ協会の創設者、大谷光明氏が手掛けしました。東北・北海道では初の十八ホールという堂々たるもので、当時では珍しいイベント芝が使われていました。これは芝の専門家で、札幌ゴルフ倶楽部の初代理事長、宮脇富北大教授の尽力によるところが大きかったようです。

おしゃれな

クラブハウス

ゴルフ場内には、牧舎のようになしやれた造りのクラブハウス

ウスがあり、プレーヤーたちの自慢の建物であったといえます。しかし、戦時中は軍の建物となり、戦後は現在の月寒体育館前に移築され、公民館や警察の派出所として使用されるなど、数奇な運命をたどりました。

ゴルフ場は
名士の社交場

当時、ゴルフは財界人や高級官僚、弁護士などといった一部の人たちのスポーツでした。

旧制中学卒の初任給が三十円の時代に、入会金が百円、入場料が一円、キャディーフィーが三十銭〜四十銭、ボール一個が一円二十銭〜一円六十銭。入場料より、ボール一個の値段の方が高価でした。

昭和十一（一九三六）年の陸軍大演習の際には、「ゴルフの宮様」と呼ばれた、故朝香宮がゴルフ場を訪問し、プレーを楽しみました。

幻となった

ゴルフ場

戦時色が濃くなった昭和十四（一九三九）年ごろから、次第にゴルフ



▲昭和11(1936)年、クラブハウスの前で撮影された
故朝香宮(中央)との記念写真

フを取り巻く環境が厳しいものになっていきました。
昭和十七（一九四二）年には、ゴルフ場が軍の演習地となり、翌昭和十八（一九四三）年、最後の日を迎えることとなりました。十一月下旬の雪景色の日、会員のゴルフ道具が馬車で運び出され、ついにゴルフ場はその姿を消しました。
戦後、再興する動きがあったものの、一面畑となつてしまった地にゴルフ場がよみがえることはありませんでした。
現在、跡地には閑静な住宅街が広がり、一部の人のみが知る幻のゴルフ場となりました。

(資料提供/森谷努)